

令和3年度和歌山県CSマイスター
ミニ座談会（日高会場）

「きのくにコミュニティスクールと図書館
～読書ボランティアのまなざし～」

- ◆日時：令和4年1月21日(金)13:30-15:30
- ◆会場：オンライン開催
- ◆参加者：23名

和歌山県CSマイスター プロフィール



いとう まつばえ 氏
伊藤 松枝 氏

那智勝浦町
絵本の会「よよよ」代表
<キーワード>

- ・図書館を核としたコミュニティ・スクール
- ・読書活動の推進



読書ボランティアのまなざしのその先に

子どもたちは、私たちの目の前で、未来をつくっていく「当事者」なんだ。
どんな町にしたいのか。
どんな図書館が必要なのか。
子どもたちに何を繋いでいくのか。

子どもたちの豊かな成長と幸せを願い、その町に暮らすすべての人々の幸せを願い
「図書館は そして 学校は、まちのたからもの」と言える町をめざして。

ボランティアもそれぞれの違いを認めて、

ともに活動していくためには、学びや気づきを見守ってくれる

進化し続ける図書館と仕組みが必要。なにより

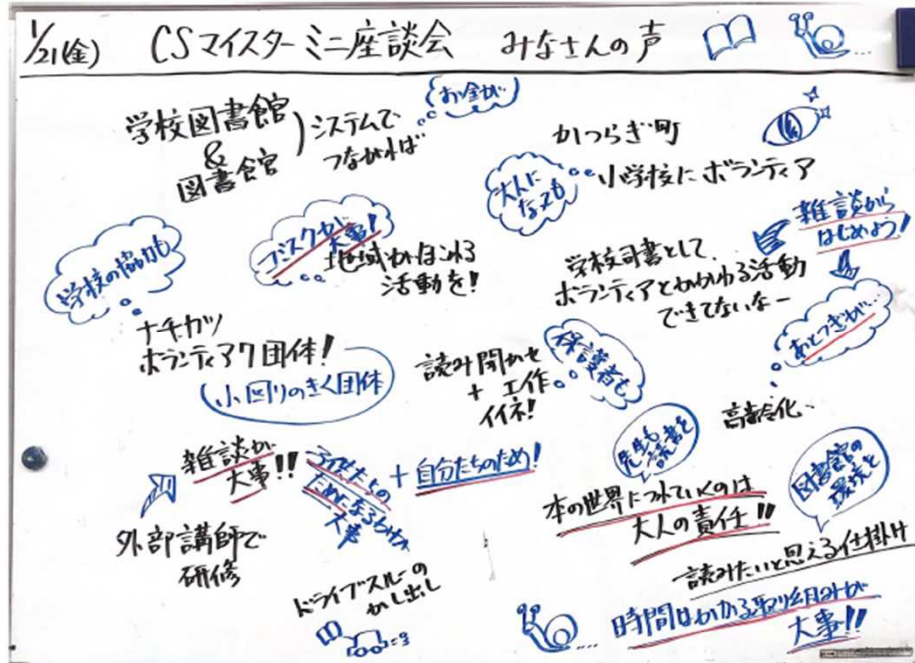
ボランティアの主体的変容(自分が変わる・学習)が **必要**

お聴き頂きありがとうございました。

良きことはカタツムリの速度で動く



歩みはつづく



子どもたちを本好きにするには

子どもと本の出会いを助ける

- ・暮らしの中に本があること
- ・大人が読んであげること
- ・大人が本を読んでいる姿を見せること
- ・ことばの土台をつくること。

(言葉の本質は「話す」「聞く」が最初)

文字が読めるようになる前に本当に豊かな体験をしないと読書ができなくなる。



読書環境を整えるとは

- ・読むもの
- ・読む時間
- ・心の余裕
- ・読む自由
- ・読む力
- ・好奇心
- ・手渡す人

学校でも先生が子どもたちに語ってあげると・・・
下準備の必要

子どもたちも大人も好奇心のある人は、自分の好きなものに情熱を燃やす中で、「本を必要とするときがくる」「読みたい」という気持ちから読書始める。